

## 図書紹介

◎熱帯林の保全と非木材林産物—森を生かす知恵を探る—（渡辺弘之 京都大学出版会 287 頁，2002.3，3,400 円）

ヤーン・ナー，タナカってなに？ 佐藤さんなら知っているがね。熱帯を良く知っている人でも，それほど耳になじんではないと思う。たねあかし。ヤーン・ナーは竹箒の漏水を抑える樹脂のヤーン・レジンを生産するフタバガキ科樹木，タナカはミャンマー紹介テレビなどでおなじみの特に女性の肌を守る白い粉を作るミカン科の樹木。

古くから土地々々で作られてきた多くの伝統的技術や生産物が科学の発達に伴って，十分な検証もなく消滅しつつあることが 1980 年代後半から世界の識者の間で指摘されてきた。1992 年のリオ・環境サミットでも取り上げられ，森林の持続可能な開発に関する政府間パネルにおいて「森林に関わる伝統的知識が地域の森林の維持と持続可能な経営に重要な役割を果たす」とし，各国，各国際機関に対して森林先住民伝統知識の保護と適切な利用が勧告された。勧告を受けて，たとえば ITTO では「森林先住民伝統知識保護プロジェクト」を立ち上げているし，日本も伝統的知識の保護・利用促進調査を実施している。

著者はこのような指摘がある以前から地域住民の生活とその中での林産物の果たす役割について長年にわたって研究を進めてきた世界的な先人の一人であることは読者諸兄もご承知の通りであるが，このたび中間報告的に本書をとりまとめられた。

本書は二つの構成からなり，まず非木材林産物を中心とした伝統的産物が世界的視野からどのように扱われているか，それを取り巻く環境について述べている。第 2 章では，前述の 2 種の他ウルシ，シナモン，ダマールなど，東南アジアの主な非木材林産物 11 種類を取り上げ，具体的な生産方法などの技術的問題に加えて，人々の生活の中での位置づけや森林との関わり，これらの林産物の将来など社会経済的問題点が非常にわかりやすく述べられている。近年顕在化してきているが，荒廃が進む熱帯林を維持するには荒廃の主な原因でもある地域住民を巻き込んだ森林管理法が好適であるとの認識がインドネシアやミャンマーなどでも定着しつつある。本書は熱帯林の管理に対して，このような視点に立つ人々，特に村落開発などを指向する NGO グループの皆さんには，非常に多くの，示唆に富んだ情報や考え方が満載であり，是非一読を勧めたい。同時に，熱帯で多くのプロジェクトを計画する立場の方々にも新たなプロジェクトの立ち上げに大きな力となる情報が得られることも付言する。

読後感として，人に温かく，森林を心から愛する著者の心がひしひしと伝わり，大変さわやかであった。

（大角泰夫）